

## 令和3年度 第1回健康うらやす21（第2次）推進検討委員会議事録

1. **開催日時** 令和3年7月27日（火） 午後1時15分～午後2時55分

2. **開催場所** 健康センター リハビリルーム

3. **出席者**

（委員）

福島委員長、畑中副委員長、上平委員、宮川委員、立石委員、原田委員、加藤委員、岡崎委員、蛭名委員、酒匂委員、菅井委員、石川委員、大塚委員、阿部委員、石橋委員、大矢委員、大村委員、宮坂委員

（事務局）

健康こども部 岡部部長・野崎次長

健康増進課 森課長・齊川係長・橋本・宇都木

母子保健課 峯村課長・早川補佐・手島係長・鈴木・岩佐

4. **議 題**

（1）委嘱状交付

（2）市長挨拶

（3）委員長・副委員長選出

（4）委員長挨拶

（5）自己紹介

（6）議題

①健康うらやす21（第2次）推進について

②コロナ禍における市民の健康について

③意見交換

5. **議事の概要**

①健康うらやす21（第2次）推進について

②コロナ禍における市民の健康について

③意見交換

上記①②について、事務局より説明し、意見交換を行った。

6. **会議経過**

（委員）

事業の実施状況について、ほとんどの事業が減少したとあるが、減少したからこういう工夫しよう、こう見直そう、ある事業でうまくいったから他の事業でもそうしてみよう、などといった取り組みはしたのでしょうか。

（事務局）

減少については、例えば、令和元年度は月1回で年12回実施していた事業が、緊急事

態宣言中は実施を見送ったため、9回の実施になったようなものは、全て減少としています。

また、参加者等の人数が減ったものは「減少」としておりますが、健診や教室等では実施方法を少し変えて再開しておりますし、オンラインの活用や密を避けるため予約制にするなどの工夫をしております。

食育については、例えば離乳食クラスでは予約制にしたことから、参加人数が減少しましたが、お子さんが小さいため来所するのが怖いという方に対して、電話相談を行ったことから電話相談の件数は増えております。

(委員長)

コロナ禍において、いろいろな工夫をしながら取り組んでいく必要があると思います。市民生活の影響は実はこのようなことがある、自分たちの活動でこのようなことを考えている、効果的な発信方法など、コロナ禍における活動について、ご意見とかご質問を含めていただければと思います。

(委員)

老人クラブではコロナが始まって、亡くなった方、移転された方、ホームに入った方などで140名程度減少しています。ワクチン接種も2回終わり、9月頃から活動を再開しようと計画を立てております。コロナ禍で閉じこもりがちで、フレイルが心配されます。そのため、少しずつ行動をしようと考えています。

(委員)

浦安市婦人の会では、自転車に乗っても苦しくない夏用のマスクづくりを行っております。また、盆踊りの練習を5月から始めており、お盆が終わった9月以降も行う予定です。練習の後に、筋肉を緩める運動を行っており、健康づくりに取り組んでいます。コロナ禍で外出の機会が少ないため、今後も定期的に行っていきたいと考えています。

(委員)

スポーツ協会では、春のスポーツ大会はほとんど中止となっておりますが、バスケット、ミニバスケットなどでは、クォーターごとにボールを消毒するなど感染対策を徹底しています。

オリンピックを見ると、そこまでやっている様子もなく、競技によってはもう少し緩めるべきなのも含め、競技の運営方法について検討したいと考えています。

(委員長)

聞くとところによると、オリンピックでは、ワクチン接種とPCR検査の徹底をしたうえでということでしたので、やはり準備をしなければならないと思いました。

(委員)

計画推進の基本的な視点ですが、健康に関心が低い方、関心が持てない方たちで、自治会でも催し物に全然出てこない方がいらっしゃる。そのような方に対し、市として、どのように働きかけ、目標を推進していくのでしょうか。

ゴミを捨てに行けない人は近所が助けてあげる、マンションではお助け隊というものがあり、代わりにゴミを捨ててあげるといったことがあるようだが、他の住民と接することができない方に対して支援が必要だと考えます。

また、自治会の中には月に1～2回程度、果物を売ったりするマルシェがある。また、元町の魚屋さんが地域まで来て販売をしていると聞いています。

毎年夏祭りを実施しているが、不特定多数の方が参加するものは、出来れば控えてほしいという市の方針もあり、今後、どのように開催すべきか悩んでおります。

(委員長)

地域になかなか出てこない方やゴミ捨てもままならない方、ハイリスクアプローチの方々に向けては、市ではどのような考えですか。

(事務局)

「健康教室」のような形だと、どうしても来ていただけない方もおりますが、例えばマルシェのような場であれば、生活行動として野菜を買うために気楽に地域に出てくるきっかけになると思います。地域の中に必ず健康に意識のある人だけが集まりやすいような場ではなく、意識があってもなくても、とにかく生活をしていく上では必要なことをもっと地域の中に取り入れていくことで、健康への無関心層の方を取り込むことに繋がると思います。

また、現在、10ヶ所自治会において、地域包括支援センターの各エリアのサテライト化に向けてモデル的に取り組んでおります。例えば、保健師が地域に出向いて骨密度測定を行ったり、薬剤師会がお薬相談の場を設けたりと、決まった場所で相談や健康教育をするのではなく、地域の中に出ていけるような体制づくりが、無関心層の方への繋がりになると考えております。

そのほか、今年度より検診車による乳がん検診をダイエー浦安駅前店で実施し、買い物ついでに受診して頂けるような取り組みも行っており、啓発にも繋がるものと考えております。

(委員長)

活動そのものが市民のためであって、市民が主人公で主体だという考え方で、浦安は進んでいるものと思います。先程夏祭りを中止したとありましたが、どういう風な形であれば実現できるのかということ、行政と地域と一緒に考えていく必要があると思います。

(委員)

私は、いくつかの社会活動に現在も参加をさせていただいていますが、去年一昨年あたり、ほとんど活動は休止となり、一步も外に出ないという日が多くありました。食べることが元気の源と思い、家でひたすら料理を作って食べています。こういう時だからこそしっかり食べて体を作っていかなければいけないと考えています。

今年に入って少しずつ活動が始まっており、食べることが元気の源だと痛感しており

ます。

(委員長)

施策の展開の中に「栄養・食事」という点が入っており、大事な視点だなと思います。

(委員)

ワクチン2回打ったのですが、感染リスクは低くなると考えますがいかがでしょうか

(委員)

ワクチンを2回接種している方の感染リスクは減っていると思います。ただし、無防備に外に出ていいのではなく、しっかりと感染対策はする必要があると考えます。今後、ワクチン接種が広がっていけば、活動も早く出来るのではないかと考えます。あわせて、PCR検査も並行することがさらに良いと考えます。

(委員長)

最後になりますが、それぞれ地域の課題やご意見等を、当委員会で発信していただければと思います。では事務局に戻します。

(事務局)

コロナ禍において、市民の中でも体重や喫煙量の増加、認知症やそれから要介護状態が若年化しているなど、生活習慣病に関わる状況が起こっております。また、人とのつながりが少なくなることで、心を病んでいく方が増えている状況もありますので、今後も皆様のご意見を頂きながら、取り組んでまいりますのでご協力をお願いします。

問い合わせ先：健康こども部健康増進課成人保健係 担当：宇都木 電話：047-381-9059 (内線) 732108